



発行所 公民館
編集 公民館
印刷 公民館
社内 公民館
新田 公民館

人口 5,806人
男子 2,814人
女子 2,992人
世帯数 1,518戸
(3月末現在)

五十八年度をふりかえって

会長 沢柳 辨治郎

うららかな陽光のもと、万物躍動の気配を覚ゆる春となりました。公民館は社会教育法を基盤として、地域における生涯教育構想に立ち、教育文化・スポーツ活動の振興、住民の自治意識の向上を目標に掲げ、広範な活動を展開しているところであります。

本年度竜丘地区においては、多年の懸案であった竜丘小学校の全面改築が竣工し、竜丘教育百年の大計に基づき、この丘の高台に白亜の殿堂が聳え、教育施設並びに環境が拡充整備されたことは、誠に以って御慶にたえないところであります。この学校改築工事中はグラウンド使用にかかわるスポーツ活動に於て、種々制約を受けましたが、地区皆様の御協力により何とか乗り越えて参りました。

公民館においては今日の社会体育の振興に伴うスポーツ人口増加の現実に対処するため、体育委員会・体

育指導委員の協力のもと綿密なる運営企画を重ねてその推進に当たっております。十一月三日には学校改築の竣工を祝して竜丘地区市民運動会が盛大に開催され、大きな盛り上りのあったことは喜びにたえません。十一月十二、十三日には学校全面改築を祝い文化委員会の中核事業として記念文化祭が開かれ、地区の皆様よりは数多くの優れた作品が出品されました。またグループ発表会においては日頃のグループ学習の成果を存分に発揮され、質の高さと洗練された発表ぶりに一同感激し、祝賀の雰囲気場内に満ち溢れておりました。

この文化祭に当たり、民俗資料保存委員会ではユニークな発想のもと、目下保管中の一千余点に及ぶ民俗資料を「おしんこの家」として民家の一室を機能的に構成配置し、大変な好評を博しました。

広報委員会においては前

十年一昔と云いますが、生れ育った所よりお世話になった竜丘の方が良くなりました。下手な横好きで始めたママさんバレーも十数年を数えますが、自分作らよく続いたものだと思つ。飯田市のママさんバレーの試合があるからと始めた当初も年令はいろいろで、四十才をいくつ過ぎた方もみえ「私もあの方の年令まで出来るのかな」と思つ



随想リレー (124回)

た事もありませんが、今では四十才なんですっかり忘れてる位です。時代の流れと、スポーツ人口の底辺の拡大と云う意味でも気楽にやる機会が多くなった事は、本当に喜ばれない人、やる機会のない

悪い事だと思つ。ママさんバレーを始めた当時の方々とはほとんどバレーで顔を合らす事もない位です。この年になったからこその、部員の足をひっぱらない程度に続けていけたらと

今年度第三回を迎える竜丘婦人の集いが、去る三月四日の日曜日に、竜丘公民館で開催されました。今年から初めて、婦団連主催で、公民館が共催という形で、地域のおばさん達を中心に、いろいろな形で参加して来ましたが、自分の趣味や娯楽的な事だけに参加する事が社会参加だと受けとめていた若い女性も多く、講演会などの勉強会など、自己を高めるものには、子供が小さいからなどと言った理由で参加しない女性が多いなど意見が出され、自分達がこれからの外へ目を向けていってほしいかなど、真剣な話し合いがなされました。

第一分科会の中では、家庭の中で一人一人を大切に、それぞれが家庭を作っている一員なんだという、気持ちを持つ事が大切なんだという確認と、すれ違ひの多い家庭の中で公民館の活動などで、家庭の日すらつぶされがちであるなど、つぶされがちであるなど、多くの意見が出されました。

第二分科会の中では、女性の社会参加について話しがされる中、今まで女性は外へ目を向けよと言われて

場から竜丘地区の将来へのビジョンが提言されました。この放談会に出された建設的意見を大事にし解決への歩みを進めるため関係機関と連携を保ちつつ努力して参りたいと考えます。

特に竜丘地区のグラウンド問題は他地区に比し極めて充足度が低く「竜丘地区にグラウンドを」と、この合言葉のもとに各部落で地域づくりセミナーを開設して大いに世論を高め、実現に向けて取り組んで参りたいと考えます。

公民館活動が地域の皆様に愛され、親しまれ、共に意欲と生き甲斐を求めて生涯学習に打ち込んでいけるように参りたいと願って止みません。皆様の御協力を願ひいたします。

部落差別は、江戸時代の身分制度に端を発している。

去る三月六日竜丘公民館において、同和教育講座が講師に飯田教育事務所長の峰先生を招き、開かれた。同和映画「いのちの鈴」上映後、先生より同和教育について話された。

「同和」という言葉は、「同胞一和」(皆が心を一つにする)からとられ「同和教育」とは差別をなくし皆が幸せになるための教育である。

部落差別は、江戸時代の身分制度に端を発している。

今年度第三回を迎える竜丘婦人の集いが、去る三月四日の日曜日に、竜丘公民館で開催されました。今年から初めて、婦団連主催で、公民館が共催という形で、地域のおばさん達を中心に、いろいろな形で参加して来ましたが、自分の趣味や娯楽的な事だけに参加する事が社会参加だと受けとめていた若い女性も多く、講演会などの勉強会など、自己を高めるものには、子供が小さいからなどと言った理由で参加しない女性が多いなど意見が出され、自分達がこれからの外へ目を向けていってほしいかなど、真剣な話し合いがなされました。

第一分科会の中では、家庭の中で一人一人を大切に、それぞれが家庭を作っている一員なんだという、気持ちを持つ事が大切なんだという確認と、すれ違ひの多い家庭の中で公民館の活動などで、家庭の日すらつぶされがちであるなど、つぶされがちであるなど、多くの意見が出されました。

第二分科会の中では、女性の社会参加について話しがされる中、今まで女性は外へ目を向けよと言われて

心と心のふれあいで

同和教育講座

この制度は幕府藩体制(封建社会)を維持強化する為に武士により作られた。つまり、農民の反抗が強く、武士はええ・非人という最下階層を作り、彼らに百姓一揆の取締りをさせることにより、両被支配階層相互の反目(分裂支配)を計ったものである。

差別をなくす為には、部落差別の正しい歴史認識から、差別の不合理性を知る事から始まり、人の心の

傷み、苦しみを解り合う人権感覚の育成向上に努めなければならない。そして人権感覚は家庭の「和」から育つものである。誰でも、かわる問題である。

竜丘婦人の集い — 家庭作りと社会参加 —

う形、地域のおばさん達を中心に、いろいろな形で参加して来ましたが、自分の趣味や娯楽的な事だけに参加する事が社会参加だと受けとめていた若い女性も多く、講演会などの勉強会など、自己を高めるものには、子供が小さいからなどと言った理由で参加しない女性が多いなど意見が出され、自分達がこれからの外へ目を向けていってほしいかなど、真剣な話し合いがなされました。

第一分科会の中では、家庭の中で一人一人を大切に、それぞれが家庭を作っている一員なんだという、気持ちを持つ事が大切なんだという確認と、すれ違ひの多い家庭の中で公民館の活動などで、家庭の日すらつぶされがちであるなど、つぶされがちであるなど、多くの意見が出されました。

第二分科会の中では、女性の社会参加について話しがされる中、今まで女性は外へ目を向けよと言われて

昭和58年度 竜丘公民館地区費決算

項目 (内容)	金額円
館長交際費	26,000
補助金	69,500
消耗品購入費	117,997
使用料及び賃借料	87,965
Cブロック負担金	30,000
賃金	20,000
委員報酬	249,300
合計	1,730,870

差引繰高 9,449円は、59年度へ繰越

(3) 電子コピー使用料収入 11,870円
備品購入基金として別途積立

昭和59年4月22日
竜丘公民館長 沢柳 辨治郎

証拠書類にもとづき監査致しました。適正と認めました。
昭和59年4月25日
牧島 豊
木下 彦男

今頃思うこと

今迄続けてきたバレーボール、民踊等もストレス解消力作りの場として出来る限り続けていくつもりです。尚こうしていろいろな事を長く持続出来たのも家族の応援、公民館、地域の方々の御指導の賜物と感謝し、今後共よろしくお願ひいたします。

自分達の経験から教えられ、参加して良かったと思つた。このすばらしい婦人の集いが来年はもっと大きな竜丘の婦人の輪になる事を望みます。(青年会 吉川浩子)

公民館活動の目的の中に明るく住み良い地域社会を築く事も含まれるだろう。自治会、区会、常会、公民館、各種団体等が、地域の人々の声を十分に反映し、民主的運営がなされれば、誰もが望む住み良い社会を築く事ができるだろう。

昨年九月の十号台風災害に見られる様に、天災、火災、交通事故等は私達の生活に大きな影響を及ぼす。今竜丘地区民が誇りをもって続けている記録が二つある。一つは交通事故の激増の中で十年間死亡事故ゼロを続けている。また無火災も一千日を越え、本年五月には三年目へと記録を延ばそうとしている。

この二つの記録の舞台裏には安協の役員の方々を始めとする交通関係の皆さんの日頃の努力の結晶である。また予防消防を日常の消防団活動の重点目標として、昼夜を問わず活動されている消防団や関係団体の皆さんに大きな拍手を送りたい。しかしこの二つの記録を更新し、さらに延ばしていく為には、関係団体の人々のみならず、地域の人の絶大な協力が不可欠な条件となっている。

「この忙しい時代に家の息子は消防団に入らなくてよかった」と地区の公職にある方の親が話していた事が消防団の団員の耳に入りこの団員は、大変憤慨していたという話を聞きました。地域住民の生命と財産を守る高貴な目的の為に、時には命の危険も顧みずに災害現場で活動している消防団員は何の報酬も求めず、奉仕の精神で、日頃の訓練に励んでいる事を今一度顧みてもらいたい。

ともかく安協や消防団を先頭に、竜丘地区民が一体となり、死亡事故ゼロ、無火災の尊い記録を延ばして名実共に住み良い竜丘を築きたいものである。

心と心のふれあいで

同和教育講座

この制度は幕府藩体制(封建社会)を維持強化する為に武士により作られた。つまり、農民の反抗が強く、武士はええ・非人という最下階層を作り、彼らに百姓一揆の取締りをさせることにより、両被支配階層相互の反目(分裂支配)を計ったものである。

差別をなくす為には、部落差別の正しい歴史認識から、差別の不合理性を知る事から始まり、人の心の



人権感覚を育てる事が肝要です

公民館活動の目的の中に明るく住み良い地域社会を築く事も含まれるだろう。自治会、区会、常会、公民館、各種団体等が、地域の人々の声を十分に反映し、民主的運営がなされれば、誰もが望む住み良い社会を築く事ができるだろう。

昨年九月の十号台風災害に見られる様に、天災、火災、交通事故等は私達の生活に大きな影響を及ぼす。今竜丘地区民が誇りをもって続けている記録が二つある。一つは交通事故の激増の中で十年間死亡事故ゼロを続けている。また無火災も一千日を越え、本年五月には三年目へと記録を延ばそうとしている。

この二つの記録の舞台裏には安協の役員の方々を始めとする交通関係の皆さんの日頃の努力の結晶である。また予防消防を日常の消防団活動の重点目標として、昼夜を問わず活動されている消防団や関係団体の皆さんに大きな拍手を送りたい。しかしこの二つの記録を更新し、さらに延ばしていく為には、関係団体の人々のみならず、地域の人の絶大な協力が不可欠な条件となっている。

築こう火災のない明るい竜丘を

無火災一〇〇〇日達成



喜びと決意にあふれる会場

「竜丘地区無火災一〇〇〇日達成と記録延長の集い」という集いが、去る二月二十六日に竜丘公民館で行なわれた。

これは、当竜丘地区が五十六年五月より火災を出さず事なく千日を迎え、なおかつ今後とも、無火災を続けていこうと、地区の防火防犯委員会、自主防災協議会、消防団が中心となり開かれたもので、関係者はじめ地区民、百人程の出席をみた。

このような集いは、かつて他地区でも行なわれた事がないユニークな行事で、竜丘地区民の火災に対する意識の高さがうかがわれる。

席上、先だって募集された小学校児童の無火災標語

に対し、全作品に記念品の授与がなされた。

無火災千日の足取りを振り返ってみると、「めざさう無火災一千日」、「バケツ一杯、水の設置運動」のポスター、火の用心バケツの全戸配布。又、支所玄関に「無火災一千日めくり」設置など、防災に対する啓もう運動が積極的に行なわれた。

飯田広域消防管内でも、五十八年の一年間に、七十三件の火災が発生している。火災発生原因は、たき火の火の不始末、子供の火遊びなどが多い。

全国では、一日平均百六十六件、なんと二十七人も人が死傷している。

集いの終わりに、飯田地区消防組合予防課の方の講演があり、その話の中に、「常識を正しく覚える」という話があった。例えば、都市ガスは空気より軽く上に上がるが、当地のプロパンガスは重く、下にたまるガス洩れの時は、戸を開けほうきなどで掃き出すようにする。又その時は、ほうきの先が畳につかないようにする。等々。

火災は人災だ。火災の怖さを知り、一人一人が火に対する認識を高める事が大切だ。今後、火災に関する講演や映画を小グループごとで行ない、増々の意識向上を望むと共に、竜丘地区より火災を出さないよう心掛けたい。

分館の窓

万寿山の桜の間から、天竜川越しに赤石山系を眺めると、まさに桐林は、大自然のふと落である。足元のふみかためられた堅い土を破って、可憐なわらびがそと頭をもたげている。自然の雄大さと、生物の強い生命力を目の当りにする時、人間の弱さ、小ささを思い知らされる。

桐林は交通の不便さと、農業用水の少ないことで苦勞していた。電車に乗るのも、バスを利用するにも二、三十分は歩かねばならず、それも駄目へ行く時も坂道の登り下りである。それ故に一面では、桃源郷のような、静かで温かいたた

桐林

桜は散つても 樹は伸びる

樹は伸びる

こんな桐林が僅かな間に一変した。「二貫水路」の貫通と、「簡易水道」の設置、そして「川路、パイパス」の開通とである。不便さが解消されれば、一挙に住みよい場所となる。西には伊賀良境の山が、風よけの屏風となり、東向の段丘は

公民館が、社会教育、社会体育の場所として、昨今大きくクローズアップされて来ている。しかしそれと共に、ややもすると離れがちな心の通い合いの場として、各種行事、事業に積極的な参加を願い、更に輪を



地区民とのふれ合い「桐林文化祭」

恒例の竜丘地区新春放談会が一月二十二日の午後、竜丘公民館で開催された。地区内のほとんどの各種団体の役員、地区市議が一同に会し、日ごろの取り組みの報告や意見を出し合った。以下発表順に要約する。

(1)安協 死亡事故ゼロ。毎月十日を交通安全の日とし街頭指導。現在カーブミラーが大小二百本設置終了。

(2)大井川 ガードレール、川路パイパス歩道、開善寺の駐車場増設など要望したい。

(3)衛生組合 空缶・空ビンを回収して減らしたい。

(4)財産区 植林費用補助少ない。ひのきの伐期だが、市況安くできない。毎年、下草刈りが十分できず、対策を検討中。

(5)長野原壮年団 地区協力事業として、防火用水の確保を目的に、各戸の井戸の

泥がえをやって行きたい。

(5)小学校 校舎改築が地区民の協力によりやると希望。感謝したい。非行事故なし資料館の老朽化をなんとかしてほしい。

(6)日赤奉仕団 自主防災会消防との協力体制を強化。昨年十号台風の教訓をステップにしたい。月一回の三角布の使い方講習会を利用してほしい。

(7)農協 生活改善の一環として、農協での結婚式を呼びかけ好評を得ている。

(8)婦人会 老人社会に対応すべくボランティア活動をすすめる。緊急連絡表の作成。文化祭パレードでは約八万円ほど収益があった。

(9)防火防犯 防火バケツ配布による設置運動実施中。防犯灯の電気代、年百万円軽減化対策考えたい。

(10)補導員会 毎月二・三回パトロール。目立った非行がないが低年齢化の傾向あり。

(11)老人学園 約四百名いる

最後に市議から現況報告。①児童館建設について議会が採択されている。②グラウンド問題について、市へ場所等調査依頼した。③天竜川の護岸工事に使う土砂を市霊園の第二墓地から持ってきて、その跡地をグラウンド使用する事も検討している。など。

このように様々な角度から地区問題を考える機会が少ない今、この会の意義は大きい。住みよい地域づくりにために身近な問題を持ち寄り、それをみんなの要求にまで高めるスタートはやはり各種団体。更にそれをまとめて行く公民館の役割も今後一層重要となる。広げよう討論の輪。

住みよい 地域づくりのために

新春放談会



竜丘の未来を築くのはあなたです

●氏名(部落) ●氏名(部族) ●氏名(部族)

竹折 里美 長 隆嗣
久保田 哲嗣 隆嗣
木下 義盛 忠知
板倉 圭 忠知
木下 隆弘 忠知
鈴木 隆雄 忠知
中村 裕希 忠知
林 健一郎 忠知
宮下 治美 忠知
岡島 将通 忠知
遠山 将通 忠知
齊藤 国春 忠知
下平 一樹 忠知
関村 良 忠知
関島 尚子 忠知
池田 裕介 忠知
熊谷 祐子 忠知
小林 正孝 忠知
下平 桃子 忠知

●御冥福を祈る

小笠原 さかゑ 喜久
前澤 實枝子 正一
井口 保夫 和郎
中村 喜紀 繁夫
下平 幸江 新一
塩澤 とみゑ 啓一
下平 幸江 啓一
久保田 かのゑ 光男
桐生 喜一 優男
近藤 光雄 治夫
今村 収一 省三
中島 美ゆき 美知子
原 隆枝 可楽

分団長語る

二月二十日、地区総ぐるみで運動を進めて来た「常識を正しく覚える」という話があった。例えば、都市ガスは空気より軽く上に上がるが、当地のプロパンガスは重く、下にたまるガス洩れの時は、戸を開けほうきなどで掃き出すようにする。又その時は、ほうきの先が畳につかないようにする。等々。

火災は人災だ。火災の怖さを知り、一人一人が火に対する認識を高める事が大切だ。今後、火災に関する講演や映画を小グループごとで行ない、増々の意識向上を望むと共に、竜丘地区より火災を出さないよう心掛けたい。

- 二月一日 (三月十九日届出)
- ◎永遠に幸あれ
- 中村 徳一 桐林
宮澤 富美子 松尾より
中島 武津雄 桐林
中島 智子 上郷より
中島 龍彦 桐林
伊藤 恵子 伊賀良より
伊藤 恵一 駄科
川上 陽子 下条村より
沢柳 隆 駄科
三浦 美恵子 松尾より
塚平 廣志 上川路
熊谷 さち子 丸山より
木下 繁克 北方より
吉澤 真知子 駄科
- 楯 昇治 時又
小澤 和子 喬木村より
中島 和幸 桐林
矢澤 優子 喬木村より
原田 忠仁 駄科
後沢 美代子 上郷より
林 賀津雄 桐林
清水 純子 上郷より
小林 弘幸 時又
小林 まゆみ 時又
片桐 敏信 豊丘村
中村 栄一 桐林
浦野 栄一 桐林
岩崎 文 山本
熊谷 篤 山本
中島 光子 桐林より
中島 喜久雄 松尾
三石 誠子 長野原より

あの人のこの人